

## ★ 山口湾のカブトガニ

- ・約2億年前からほとんど形が変わらず、“生きている化石”と呼ばれています。
- ・かつては瀬戸内海と九州北部に広く生息していましたが、埋立て等による生息地の減少等で数が激減し、環境省レッドリストで「絶滅危惧種Ⅰ類」に指定されています。
- ・6月～8月の満潮時に、砂浜の波打ち際に“つがい”で訪れ、産卵します。幼生は干潟で暮らし、大人になると、少し離れた沿岸部に移動して生活します。脱皮で成長し、大人になるまで10年程度かかります。
- ・県内では、山口湾・平生湾・千鳥浜の3つの地域でのみ産卵や幼生の生息が確認されています。山口湾は、比較的繁殖状況が良い、全国的にも貴重な地域です。



海岸で産卵するつがい



卵塊



干潟で暮らす幼生

## ★ 山口湾のカブトガニ生息調査

- ・榎野川河口域・干潟自然再生協議会カブトガニワーキンググループでは、平成18年度から、山口湾の“長浜”及び“南潟”に生息するカブトガニ幼生を調査しています。長浜の調査は一般のボランティアを募集し、南潟の調査は協議会関係者で実施しています。
- ・長浜では、例年調査時に子どもを対象にした「カブトガニ観察会」を併催しています。
- ・このカブトガニワーキンググループの活動は、平成29年に国連生物多様性の10年日本委員会の「生物多様性アクション大賞2017」に入賞しています。

